

研究テーマ名	縁形状検査機実用化の研究
研究内容抄録	<p>本研究は貨幣の縁形状を自動検査することにより、偽造防止対策として地方自治法施行 60 周年記念 500 円バイカラー・クラッド貨幣に採用されている異形斜めギザなどを、より確実に検査できるよう研究開発を進めているものである。</p> <p>貨幣の表裏検査については、既に画像処理による貨幣検査機が導入され、通常貨幣の製造工程の中で実用化されているが、本研究ではギザを撮像するとともに、表又は裏の模様を同時に撮像し、異形斜めギザのマワリ不全判定を行えるよう、平成 27 年度から 29 年度までの三年間をかけて研究開発に取り組むこととしている。</p> <p>平成 27 年度は、異形斜めギザの自動検査実現に向けて、本局貨幣工場に設置している貨幣検査機のプロト機を用いてマワリ不全判定の基礎的な調査に取り組み、平成 26 年度に明らかになった貨幣の撮像位置によるマワリ測定誤差についての対応を行った他、通常工業を見据えた改造の準備を進めている。</p>
学会発表	—